

COME, LOOK, FEEL & RELAX

Builder：^{わたりん}綿半林業の家

住めば、住むほど健康な家

来て 見て さわって ねころんで——「綿半林業の家」が提案する「わたりんの家」のキャッチコピーに誘われて、松本市と安曇野市にあるモデルハウスを訪ねました。天然木をふんだんに用いた家は、自然と呼吸の深くなる心地良い空気に満たされていました。



A_伝統的な真壁造りで太い梁や柱を隠さず「現し」で仕上げ、壁に貼った珪藻土クロスと合わせて調湿効果を発揮する。 B・E_わたりんの家は造り付け家具を提案するほか、モデルハウスには綿半グループのインテリアショップの家具が並ぶ。 C_綿半林業の家取締役の小川和彦さん。「私はただの住宅屋」と言いつつ、木にまつわる知見が豊富な人。 D_取材日は汗ばむほどの陽気だったが、モデルハウス室内は輻射式冷暖房1台で心地良い温度・湿度に保たれていた。

住む人の健康のために
極めたのは「木の家」



松本市にある「わたりんの家」モデルハウスは、片流れ屋根が印象的で、母屋に併設したガレージを区切る石張りの壁が、目隠しと程よいアクセントになっています。

玄関はウッドデッキのテラスとともに下屋に納まり、深い軒下は雨風や日差しをさえぎるだけでなく、家の中と外をつなぐ、心地良く使い勝手のいい空間を生み出しています。

外壁はグレー。木の部分も青みがかったグレーに塗られています。「ブルグ

レー」というんですか、周囲や植栽との相性がいいとのガーデンデザイナーの提案で、この色になりました。僕のような住宅屋にはない発想です」

こう話すのは「綿半林業の家」取締役の小川和彦さんです。綿半林業の家を含む綿半グループは、小売事業ではホームセンターやインテリアショップを擁し、住宅建設事業においては原木の仕入れから製材・加工・施工まで一貫体制を敷きます。「綿半グループシナジーを生かして、家づくりから庭づくりまでご提案できるのは

私たちの強みです」と小川さんは言います。

家に入ると、木の香りにやさしく包まれ、桐の床は足裏に心地良く、見上げる梁や等間隔の柱が落ち着いた佇まいを見せます。さらに薪ストーブを囲む石張りの壁やキッチン奥のヘリンボーンの壁が目を引きます。

キッチンとダイニングの間に立つ黒いルーバーはセラミックを利用した無風空調システムです。石壁の向こうは寝室ですが、2階のロフトも含めて吹き抜けでつながり、空調の冷暖気も薪ストーブの暖気も、家全体に伝わるようになっています。

間仕切りはできるだけ少なく、窓はできるだけ大きくしてあるので、部屋のすみずみまで自然光が届き、庭の窓から、あるいは足元の地窓から、美しい草木が目を楽ませてくれます。

「わたりんの家が目指すのは健康な家。健全な自然素材でつくる、住む人が健康になる家です。そのために、木に限らず、石や珪藻土、植栽も含めて最適なものを取り入れています」

「それでも、やはり」と小川さんは言葉を続けます。「住む人の健康を考えると、木に勝る素材はありません」





木の家が健康なのは
針葉樹と桐を使うから

「木には針葉樹と広葉樹がありますが、針葉樹の組織構造は単純で、水や養分を運ぶ仮道管がストローを束ねたように並んでいます。木を伐ったあとは、ここに空気が入って断熱材の役割を果たします」

桐は広葉樹ですが、スポンジ状の内部にたくさんの空気を含み、針葉樹と同じように断熱効果を発揮します。「これに対して広葉樹は組織構造が密で空気の入る部分が少ない。だから堅く、触れると冷たく感じます。もともと広葉樹は西洋の靴を履いた生活の中で、床材や家具などに用いられてきたものです」

ひとくちに木といっても特徴はさまざままで、それを踏まえて「適材適所」であるべきだと小川さんは話します。

「私たちは家の使う場所に合わせて一番いい材を原木から仕入れます。例えば土台には北米のヒバが最適です」

ヒバにはヒノキチオールが含まれ(意外にも国産ヒノキにはほとんど含まれ

ない)、抗菌・防腐作用があります。

「木の家の良さはいろいろありますが、健康に関していえば、木のもつ断熱効果と調湿効果、何よりこの2点が挙げられます」と小川さん。

木の断熱効果は体温を奪わず、免疫力を低下させません。さらに調湿効果もあって、湿度を一定に保ち、結露を防ぎ、カビや菌を繁殖させません。見た目や質感だけでなく、断熱性や調湿性に優れた針葉樹や桐こそ、木の家に相応しいのだと小川さんは言います。

この家の心地良さを感じてほしいと、わたりの家モデルハウスでは1泊2日の宿泊体験を受け入れています。

「キッチンもお風呂も、家具も寝具も使ってみてください。ご要望があれば薪ストーブもお使いいただけます。洗濯ものやゴミ捨てるの流れなど、気になる作業動線も確認しながら過ごしてみてください。そしてどんな朝を迎えるのか、ぜひ体感してください」



F | I
G | H | J

F_薪ストーブはわたりの家オリジナル。遠赤外線の輻射熱で部屋を暖め、石壁が蓄熱して暖かさを持続させる。 G・H_庭のウッドデッキが家の中と外をつなげる。植栽や外構は、もともと綿半グループの得意分野。 I・J_気密性や断熱性をしっかり確保しつつ、大きな窓から自然光が差し、風が通り抜ける。



3つのブランドがベースのより自由な家づくり

わたりんの家が提案する家づくりには、「夢ハウス」「コットン1／2」「サイエンスホーム」という3つの基本ブランドがあります。夢ハウスは、無垢材の中でも特に高品質な材を使い、自由設計で、腕利きの職人が細部まで美しく仕上げる最上級ブランドです。

サイエンスホームは、国産ヒノキや無垢材を用いながらも、合理的な工法や規格化によって、できる限り施工コストを抑えたブランド。

コットン1／2は、前者2つのブランドのいいところを組み合わせつつ、最適な材と工法で「やわらかい暮らし」を提案するブランドです。

共通するのは、木の家であること、そ

して健康に暮らせる家であること。ここで欠かせないのが木材の乾燥技術です。木が断熱効果と調湿効果を発揮するのは、しっかり乾燥されているからこそ。わたりんの家では特許取得の木材乾燥機でこれを実現しています。

これまで伝統工法に長けた家づくりをしてきた会社、独自ユニットによる工法を極めてきた会社、木材の仕入れや加工を行ってきた会社などが綿半グループとして集まり、家づくりにおいてはわたりんの家として一本化することで、低価格帯からハイグレードまで幅広い家づくりが可能となったのです。

わたりんの家の柔軟な家づくりをよく表すのが安曇野モデルハウスです。「長

野県でよく耳にするのが、土間がほしいというご要望です。農家の方から、つなぎを着たままお昼ごはんが食べられるようにしたい、と言われたこともあります」と小川さん。

そこで安曇野モデルハウスには「木の土間」を設け、玄関から土足のまま入れる居間のような造りとしました。「安曇野なら、自宅の一角でお店をやりたいという方もいると思うんです」

夕暮れが近づき、家に明かりが灯る頃、安曇野モデルハウスの庭にも照明が灯り、植栽が照らし出されました。「相談窓口もわたりんの家に一本化しましたので、家のことなら、庭づくりも含めて、なんでもご相談ください」



K | L | O
M | N | P

K・Lより良い眠りと健康のため、ベッドや枕も自社開発した。
M・N_母屋に併設したガレージは、家から直接行き来ができる。
窓が設けられて過ごしやすく、土間のような使い方もできる。
O・P_安曇野モデルハウス。左側の中ほどにある玄関を入ると、ソファや薪ストーブの置かれた「木の土間」が広がる。階段下の小上がりで靴を脱ぐ。



綿半林業の家 松本モデルハウス 長野県松本市村井町南 2-1-28 TEL0263-87-2270
営業時間 10:00 ～ 17:00 (定休日: 火・水)
安曇野モデルハウス 長野県安曇野市豊科 5565-4 TEL0263-87-2270
営業時間 10:00 ～ 17:00 (事前予約制)